

ホセア書

第一章

一 これユダの王ウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤの世イスラエルの王ヨアシの子ヤラベアムの世に
二 ベエリの子ホセアに臨めるエホバの言なり

三 エホバはじめホセアによりて語りたまへる時エホバ、ホセアに宣はく汝ゆきて淫行の婦人を娶り淫行の子
等を取れこの國エホバに遠ざかりてはなはだしき淫行をなせばなり 是において彼ゆきてデブライムの女子ゴ
四 メルを妻に娶りけるがその婦はらみて男子を産り エホバまた彼にいひ給ひけるは汝その名をエズレルと名く
五 ベし暫時ありて我エズレルの血をエヒウの家に報いイスラエルの家の國をほろぼすべければなり その日われ
六 エズレルの谷にてイスラエルの弓を折べしと ゴメルまた孕みて女子を産ければエホバ、ホセアに言たまひけ
七 るは汝その名をロルハマ(憐まれぬ者)と名くべしそは我もはやイスラエルの家をあはれみて赦すが如きことを爲
八 ざるべければなり 然どわれユダの家をあはれまんその神エホバによりて之をすくはん我は弓劍戦争馬騎兵
九 などによりてすくふことをせじ ロルハマ乳をやめゴメルまた孕みて男子を産けるに エホバ言たまひける
一〇 はその子の名をロアンミ(吾民に非ざる者)と名くべし其は汝らは吾民にあらず我は汝らの神に非ざればなり
一〇 然どイスラエルの子孫の数は濱の沙石のごとくに成ゆきて量ることも數ふる事も爲しがたく前になんぢら
二 わが民にあらずと言れしその處にて汝らは活神の子なりと言れんとす 斯てユダの子孫とイスラエルの子孫は
三 共に集り一人の首をたてゝその地より上り來らんエズレルの日は大なるべし

イ何三・一 一三 結二三・三 一三 結二三・三
ロ中三一・一六 詩 八王下一〇・一一 一三 結二三・三
七三・二七 耶二・ 二王下一五・一〇、 一三 結二三・三
ヘ王下一七・六、二三 一三 結二三・三
ト王下一九・三五 一三 結二三・三
チ亞四・六、九・一〇 一三 結二三・三
リ創三二・一二 一三 結二三・三
前二・一〇 一三 結二三・三
ル但二・二三 一三 結二三・三
約一・一二 一三 結二三・三
約壹 一三 結二三・三
ワ賽一一・一二、一三 一三 結二三・三
耶三・二八 結三四
二二三、三七・一六 一三 結二三・三
一三四

力 聖五〇・一
 結一六・二五
 結一三・二二、二六
 結一六・三七、三九
 結一六・四
 ソ 結一九・一三
 ツ 慶八・二一、一三
 ネ 約八・四一
 ナ 賽一・二二
 一、六、八、九 結
 一六・一五、一六
 ラ 何二・八、一二 耶
 四四・一七
 耶 三・
 ム 伯三・二三、一九
 一、九
 八 哀三・七、九
 一九
 ウ 何五・一五 路一五
 一八
 中 結一六・八
 ノ 結一六・一七、一八、
 マ 結一六・三七、二三
 一九
 才 何八・四
 ク 賽一・三
 十 何二・三
 ノ 結一六・三七、二三
 コ 何二・五
 二九
 エ 詩八〇・一二、一三
 賽 五・五
 フ 王上二・三二 慶
 ラ 結三三・四〇、四二

第二章 汝らの兄弟に向ひてはアンミ(わが民)と言ひ汝らの姉妹にむかひてはルハマ(憐まるゝ者)と言へ

一 なんぢらの母とあげつらへ論辨ふことをせよ彼はわが妻にあらず我はかれの夫にあらざるな
 二 りなんぢら斯してかれにその面より淫行を除かせその乳房の間より姦淫をのぞかしめよ 然らざれば我かれを
 三 剥て赤體にしその生れいでたる日のごとくにしまた荒野のごとくならしめ潤ひなき地のごとくならしめ渴によ
 四 りて死しめん 我その子等を憐まじ淫行の子等なればなり かれらの母は淫行をなせりかれらを生る者は恥
 五 べき事をおこなへり蓋かれいへる言あり我はわが戀人等につきしたがはん彼らはわがパンわが水わが羊毛わが
 六 麻わが油わが飲物などを我に與ふるなりと この故にわれ荆棘をもてなんぢの路をふさぎ垣をたて、彼にその
 七 徑をえざらしむべし 彼はその戀人たちの後をしたひゆけども追及ことなく之をたづぬれども遇ことなし是に
 八 おいて彼いはん我ゆきてわが前の夫にかへるべしかのときのわが状態は今にまさりて善りきと
 九 彼が得る穀物と酒と油はわが與ふるところ彼がバアルのために用ゐたる金銀はわが彼に増あたへたること
 一〇 ろなるを彼はしらざるなり これによりて我わが穀物をその時におよびて奪ひわが酒をその季にいたりてうば
 一一 ひ又かれの裸體をおほふに用ゆべきわが羊毛およびわが麻をとらん 今われかれの恥るところをその戀人等の
 一二 目のまへに露すべし彼をわが手より救ふものあらじ 我かれがすべての喜樂すなはち祝筵新月のいはひ安息日
 一三 および一切の節會をして息しめん また彼の葡萄の樹と無花果樹をそこなはん彼さきに此等をさしてわが戀人
 一四 の我にあたへし賞賜なりと言しがわれこれを林となし野の獸をしてくらはしめん われかれが耳環頸玉などを

掛てその戀人らをしたひゆき我をわすれ香をたきて事へしもろもろのバアルの日のゆゑをもてその罪を罰せん

エホバかく言たまふ

斯るがゆゑに我かれを誘ひて荒野にみちびきいり終にかれの心をなぐさめ かしこを出るや直ちにわれ

かれにその葡萄園を與へアコル(患難)の谷を望の門となしてあたへん彼はわかよりし時のごとくエジプトの國よ

り上りきたりし時のごとくかしこにて歌うたはん エホバ言たまふその日にはなんぢ我をふたゝびバアリとよ

ばずしてイシ(吾夫)とよばん 我もろもろのバアルの名をかれが口よりとりのぞき重ねてその名を世に記憶せ

らるゝこと無らしめん その日には我かれら(我民)のために野の獸そらの鳥および地の昆虫と誓約をむすびま

た弓箭ををり戦争を全世界よりのぞき彼らをして安らかに居しむべし われ汝をめとりて永遠にいたらん公義

と公平と寵愛と憐憫とをもてなんぢを娶り かはることなき眞實をもて汝をめとるべし汝エホバをしらん

エホバいひ給ふその日われ應へん我は天にこたへ天は地にこたへ 地は穀物と酒と油とに應へまた是等

のものはエズレルに應へん 我わがためにかれを地にまき憐まれざりし者をあはれみわが民ならざりし者にむ

かひて汝はわが民なりといはんかれらは我にむかひて汝はわが神なりといはん

第三章

エホバわれに言給ひけるは汝ふたゝび往てエホバに愛せらるれども轉りてほかのもろもろの神に

むかひ葡萄の菓子を受するイスラエルの子孫のごとくそのつれそふものに愛せらるれども姦淫を

おこなふ婦人をあいせよ われ銀十五枚おほむぎ一ホメル半をもてわが爲にその婦人をえたり 我これにい

ひけるは汝おほくの日わがためにとゞまりて淫行をなすことなく他の人にゆくことなかれ我もまた汝にむかひて

イ結三〇・三五 八・二二・六〇 二出二五・一 二出二五・一 二出二五・一 二出二五・一 二出二五・一 二出二五・一 二出二五・一 二出二五・一 二出二五・一 二出二五・一

力何一・一〇 亞二三
 九 羅九・二六
 彼前二・二〇
 何一・二二
 多耶三・二〇
 申二一・一三
 何一〇・三
 賽一九・一九
 申二八・六
 士一七・五
 耶五〇・四、五 何
 五・六
 耶三〇・九 結三四
 二二・二四、三七
 二二・二四 耶三〇・
 二二 結三八・八、
 一六 但二・二八
 米四・一
 二二・二八、三〇・一
 三、一四 耶三五
 三、一四 何一二・二
 二二 耶四・二二、五、四
 一六 耶四・二八、二二・四
 耶四・二八、二二・四
 慶五・二六、八・八
 番一・三
 申一七・二二
 耶六・四、五、一五・
 一五 耶二四・二 耶五・
 一 耶二六・二六 米六
 一四 基一・六
 耶二八・七 傳七・七
 二〇・二八
 一九 耶四四・二〇 何五
 四 耶一・二九、五七・
 五、七 結六・一三、
 二〇・二八

然せん 四 イスラエルの子輩は多くの日王なく君なく犠牲なく表柱なくエホバなくテラビムなくして居らん
 五 その後イスラエルの子輩はかへりてその神エホバとその王ダビデをたづねもとめ末日にをのゝきてエホバとそ
 の恩恵とにむかひてゆかん

第四章

一 イスラエルの子輩よエホバの言を聽けエホバこの地に住る者と争辨たまふ其は此地には誠實なく
 愛情なく神を知る事なければなり 二 たゞ詛偽凶殺盜姦淫のみにして互に相襲ひ血血につど

き流る 三 このゆるゑにその地うれひにしづみ之にすむものはみな野のけもの空のとりとともにおとろへ海の魚も
 また絶はてん 四 されど何人もあらずいましむ可らず汝の民は祭司と争ふ者の如くなれり 五 汝は豈
 つまづき汝と偕なる預言者は夜つまづかん我なんぢの母を亡すべし

六 わが民は知識なきによりて亡さるなんぢ知識を棄つるによりて我もまた汝を棄てゝわが祭司たらしめじ
 汝おのが神の律法を忘るゝによりて我もなんぢの子等を忘れん 七 彼らは大なるにしたがひてますます我に罪を
 犯せば我かれらの榮を辱に變ん 八 彼らはわが民の罪をくらひ心をかたむけてその罪をかすを願へり 九 この
 ゆゑに民の遇ふところは祭司もまた同じわれその途をかれらにきたらせその行爲をもて之にむくゆべし 一〇
 らは食へども飽ず淫行をなせどもその數まさずその心をエホバにとむることを止ればなり

一一 淫行と酒と新しき酒はその人の心をうばふ 一二 わが民木にむかひて事をとふその杖かれらに事をしめす是
 かれら淫行の靈にまよはされその神の下を離れて淫行を爲すなり 一三 彼らは山々の巔にて犠牲を獻げ岡の上に

て香を焚き橡樹 楊樹 栗樹の下にてこの事をおこなふ此はその樹蔭の美しきによりてなりこゝをもてなんぢらの
 女子は淫行をなしたんぢらの兒婦は姦淫をおこなふ 我なんぢらのむすめ淫行をなせども罰せずなんぢらの
 兒婦かんいんをおこなへども刑せじ其はなんぢらもみづから離れゆきて妓女とともに居り淫婦とともに獻物を
 そなふればなり悟らざる民はほろぶべし

一五 イスラエルよ汝淫行をなすともユダに罪を犯さする勿れギルガルに往なかれベテアベンに上るなかれエホ
 一六 バは活くと曰て誓ふなかれ イスラエルは頑強なる牛のごとくに頑強なり今エホバ羔羊をひろき野にはなてる
 一七 が如くして之を牧はん エフライムは偶像にむすびつらなれりその爲にまかせよ かれらの酒はくされかれ
 一八 らの淫行はやまずかれらの楯となるべき者等は恥を愛しいたく之を愛せり かれは風の翼につままれかれらは
 一九 その禮物によりて恥辱をかうむらん

第五章

一 祭司等よこれを聽けイスラエルの家よ耳をかたむけよ王のいへよ之にこゝろを注よさばきは汝等
 二 にのぞまんそは汝らはミズバに設くる絹タオルに張れる網のごとくなればなり 悖逆者はふかく
 三 罪にしづみたり我かれらをことごとく懲しめん 我はエフライムを知るイスラエルはわれに隠るゝところ無し
 四 エフライムよなんぢ今すでに淫行をなせりイスラエルはすでに汚れたり かれらの行爲かれらをしてその神に
 五 歸ること能はざらしむそは淫行の靈その衷にありてエホバを知ることなければなり イスラエルの驕傲はその
 六 面にむかひて證をなしその罪によりてイスラエルとエフライムは仆れユダもまた之とともにたふれん かれら

イ歴七・二七 羅一・五 八・五 亞七・一一 五二・一 力歴三・二
 二八 二王上一二・二九 何 一〇・五 一〇・五 二六 一五 耶一・一一 一
 何四・二、六 一〇・五 一〇・五 一〇・五 一七 結八・二八 米三・八
 八何九・二五、一二 ホ歴八・一四 番一・五 一七 何四・二二 約七・三四
 一一 歴四・四、五 へ耶三・六、七、二四、 又耶四・一一、一二、 一七 耶二九・一五 一〇

ツ賽四八・八 耶三・ラ書七・二何四・一五 ノ王上一二・二八米 マ王下一五・一九何 ヲ詩五〇・二二
 二〇、五・一一 何 ム賽一〇・三〇 六・一六 七・二一、一二・一 エ利二六・四〇、四一 ア申三二・三九 母前 キ哥前一五・四
 六・七 馬二・二一 ウ士五・二四 才申二八・三三 何一〇・六 耶二九・一二、一三 二・六 伯五・一八 ヲ母後二二・三四
 ネ亞一・一八 申中一九・一四、二七 ク鐵一二・四 哀三・一〇 何一三 結六・九、二〇 何五・一四 二伯二九・二三
 ナ何八・一 耳二・一 二七 十耶三〇・一二 七、八 四三、三六・三一 サ耶三〇・一七 シ詩七二・六

は羊のむれ牛の群をたづさへ往てエホバを尋ね求めん然どあふことあらしエホバ既にかれらより離れ給ひたれば
 なり 七 かれらエホバにむかひ貞操を守らずして他人の子を産り新月かれらとその産業をとともに滅さん

八 なんぢらギベアにて角をふきラマにてラツパを吹ならしベテアベンにて呼はりて言へベニヤミンよなんぢ
 九 の後にありと 罰せらるゝの日にエフライムは荒廢れん我イスラエルの支派の中にならず有るべきことを示
 一〇 せり ユダの牧伯等は境界をうつすもののごとくなれり我わが震怒を水のごとくに彼らのうへに斟がん 一一 エ

一二 フライムは甘んじて人のさだめたるるところに従ひあゆむがゆるに鞫をうけて虐げられ壓られん 一三 われエフライ
 一四 ムには蠹のごとくユダの家には腐朽のごとし 一五 エフライムおのれに病あるを見ユダおのれに傷あるをみたり斯
 一六 てエフライムはアツスリヤに往きヤレブ王に人をつかはしたれど彼はなんぢらを醫すことをえず又なんぢらの傷

一七 をのぞきさることを得ざるべし 一八 われエフライムには獅子のごとくユダの家にはわかき獅子のごとし我しも我
 一九 は抓撻てさり掠めゆけども救ふ者なかるべし 二〇 我ふたゝびわが處にかへりゆき彼らがその罪をくいてひたすら
 二一 わが面をたづね求むるまで其處にをらん彼らは艱難によりて我をたづねもとむることをせん

二二 來れわれらエホバにかへるべしエホバわれらを抓撻たまひたれどもまた醫すことをなし我儕をう
 二三 ち給ひたれどもまたその傷をつゝむことを爲したまふ可ればなり 二四 エホバは二日ののちわれらを

二五 活かへし三日にわれらを起せたまはん我らその前にて生ん 二六 この故にわれらエホバをしるべし切にエホバを知
 二七 ることを求むべしエホバは晨光のごとく必ずあらはれいで雨のごとくわれらにのぞみ後の雨のごとく地をうる

第六章

ほし給ふ

四 エフライムよ我なんぢに何をなさんやユダよ我なんぢに何をなさんやなんぢの愛情はあしたの雲のごとく
 五 またたゞちにきゆる露のごとし このゆゑにわれ預言者等をもてかれらを撃ちわが口の言をもてかれらを殺せ
 六 りわが審判はあらはれいづる光明のごとし われは愛情をよるこびて犠牲をよるこばす神をしるを悦ぶこと燔
 七 祭にまされり 然るに彼らはアダムのごとく誓をやぶりかしこにて不義をわれにおこなへり ギレアデは悪
 八 をおこなふものの邑にして血の足跡そのなかに徧し 祭司のともがらは山賊の群のごとく伏伺して人をそこな
 九 ひシケムに往く大路にて人をころす彼等はかくのごとき悪きことをおこなへり われイスラエルのいへに憎む
 一〇 べきことあるを見たりかの處にてエフライムは淫をおこなふイスラエルは汚れたり ユダよ我わが民の俘囚を
 一 かへさんときまた汝のためにも穫刈をそなへん

第七章

一 われイスラエルを醫さんときエフライムの愆とサマリヤのあしきわざと露るかれらは詐詭をおこ
 二 なひ内には偷盗いるあり外には山賊のむれ掠めさるあり かれら心にわがその一切の悪をした
 三 ためたることを思はず今その行爲はかれらを圍みふさぎて皆わが目前にあり かれらはその悪をもて王を悦ば
 四 せその詐詭をもてもろもろの牧伯を悦ばせり かれらはみな姦淫をおこなふ者にしてパンを作るものに焼るゝ
 五 爐のごとし捏粉をこねてその發酵ときまでしばらく火をおこすことをせざるのみなり われらの王の日にもろ
 六 もろの牧伯は酒の熱によりて疾し王は嘲るものとともに手を伸ぶ かれら伏伺するほどに心を爐のごとくして

イ何一・八 五・一 米六・八 太 七伯三二・三三
 ロ何一三・三 九・一三、一二・七 リ何八・一
 ハ耶一・一〇、五・一四 へ詩五〇・八、九 又何五・七
 ニ耶二三・二九 來四 二一・三 賽一・一一 ル何一二・一一
 ・一一 ト耶二二・一六 約 七耶一一・九 結三二
 水母前一五・二二 傳 一七・三 二五 何五・一、二
 ワ耶五・三〇 一七 一七 何五・一、六・一〇 ラ耶九・二
 カ何四・一二、一三、 ツ詩九・二六 箴五・
 ヨ詩一二六・一 二二
 タ耶五・三三 耳三 ネ詩九〇・八
 ・二三 黙一四・一五 ナ羅一・三二
 ム何八・四
 ウ王下一五・一〇、 一四、二五、三〇、
 マ何一一・一一 牛賽六四・七
 ノ詩一〇六・三五
 オ何八・七
 ク何五・五
 ケ賽九・一三
 マ何一一・一一

夕王下二五・一九、一 フ結二二・二三 一七・二三、一八 七八・三六 耶三・サ詩七八・五七
 七・四 何五・一三、一 二八・一五 王下 二八・一五 申 エ米六・四 一〇 耶七・五 キ詩七三・九
 九・三、一三・一 二八・一五 王下 二八・一五 九・一〇 詩 ア何一一・七 二何九・三、六
 ヌ何五・八 二申二八・四九 耶四 エ詩七八・三四 何五 七多一・一六
 シ何六・七 二二三 哈一・八 二二五 一七、二五 一七、二五

七 備をなすそのパンを焼くものは終夜ねむりにつき朝におよべばまた焔のごとく燃ゆ 七 かれらはみな爐のごとく
 に熱してその審士をやくそのもろもろの王はみな仆るかれらの中には我をよぶもの一人だになし
 九八 エフライムは異邦人にいりまじるエフライムはかへさざる餽餅となれり 九 かれは他邦人らにその力をの
 九〇 まるれども之をしらず白髪その身に糲り生れどもこれをさとらず 一〇 イスラエルの驕傲はその面にむかひて證を
 二 なすかれらは此もろもろの事あれどもその神エホバに歸ることをせず又もとむることをせざるなり 二一 エフライ
 三 ムは智慧なくして愚なる鴿のごとし彼等はエジプトにむかひて呼求めまたアツスリヤに往く 二三 我かれらの往と
 三 きわが網をその上にはりて天空の鳥のごとくに引墮し前にその公會に告しごとくかれらを懲しめん 二三 禍なる
 四 かなかれらは我をはなれて迷ひいでたり敗壞かれらにきたらんかれらは我にむかひて罪ををかしたり我かれらを
 贖はんとおもへどもかれら我にさからひて謊言をいへり 一四 かれら誠心をもて我をよばず唯牀にありて哀號べ
 五 りかれらは穀物とあたらしき酒のゆゑをもて相集りかつわれに逆らふ 一五 我かれらを教へその腕をつよくせしか
 六 ども彼らはわれにもとりて悪きことを謀る 一六 かれらは歸るされども至高者にかへらず彼らはたのみがたき弓の
 ごとし彼らのもろもろの牧伯はその舌のあらき言によりて劍にたふれん彼らは之がためにエジプトの國にて嘲笑
 をうくべし

第八章

一 ラツバをなんぢの口にあてよ敵は驚のごとくエホバの家にのぞめりこの民わが契約をやぶりわが
 二 律法を犯しよによる 二 かれら我にむかひてわが神よわれらイスラエルはなんぢを知れりと叫ばん
 三 イスラエルは善をいみきらへり敵これを追ん 四 かれら王をたてたり然れども我によりて立しにあらずかれら

牧伯をたてたり然れども我がしらざるところなり彼らまたその金銀をもて己がために偶像をつくれりその造れる

は毀ちすてられんが爲にせしにことならず 五 サマリヤよなんぢの犢は忌きらふべきものなりわが怒かれらにむ

かひて燃ゆかれら何れの時にか罪なきにいたらん 六 この犢はイスラエルより出づ匠人のつくれる者にして神に

あらずサマリヤの犢はくだけで粉とならん 七 かれらは風をまきて狂風をかりとらん種ところは生長る穀物なく

その穂はみのらざるべしとひ實るとも他邦人これを呑ん 七 かれらは風をまきて狂風をかりとらん種ところは生長る穀物なく

イスラエルは既に呑れたり彼等いま列國の中において悦ばれざる器のごとく視做るゝなり 九 彼らは獨

ろし野の驢馬のごとくアツスリヤにゆけりエフライムは物を餽りて戀人を得たり 一〇 かれら列國の民に物を餽り

たりと雖も今われ彼等をつどへ集む彼らは諸侯伯の王に負せらるゝ重擔のために衰へ始めん 一一 我かれらのため

エフライムは多くの祭壇を造りて罪を犯すこの祭壇はかれらが罪に陥る階とはなれり 一二 我かれらのため

に律法をしるして數件の箇條を示したれど彼らは反て之を異物とおもへり 一三 かれらは我に獻ふべき物を獻ふ

れども只肉をそなへて己みづから之を食ふエホバは之を納たまはず今かれらの愆を記え彼らの罪を罰したまはん

彼らはエジプトに歸るべし 一四 イスラエルは己が造主を忘れてもろもろの社廟を建てユダは塹をとりまはせる邑

を多く増し加へたり然どわれ火をその邑々におくりて諸の城を焼亡さん

第九章

イスラエルよ異邦人のごとく喜びすさむ勿れなんぢ淫行をなして汝の神を離る汝すべての麥の
打場にて賜はる淫行の賞賜を愛せり 二 打場と酒酔とはかれらを養はじ亦あたらしき酒もむなしく

イ何二・八、一三・二 ホ王下二七・六 一三・三三、三四 七 但二・三七 一九・二〇 一〇九・九 一〇八・七 一〇
ロ耶一三・二七 何一〇 何一〇 何一〇 何一〇 何一〇 何一〇 何一〇 何一〇 何一〇 何一〇 何一〇 何一〇 何一〇 何一〇 何一〇
ハ何二・八、何一〇 ト王下二五・一九 九 賽一〇・八 結二六 一九・二八、一四七 五・二二 二 何四・一七 何二
ニ 何七・九 九 賽一〇・八 結二六 一九・二八、一四七 五・二二 二 何四・一七 何二

ノ利二五・二三 耶二 マ何三・四
七、一六・一八 ケ耶六・二〇 何八・ア察五・六、三三・
オ何八・二三、一一・五 一三、三四・一三 エ察三・一六 何一〇
ク王下一七・六 何 フ申二六・一四 コ利一七・一一 何一〇・八
一、一一・一一 何 何二・二二 一、一三・三三 米二・メ士一九・二二
ヤ結四・一三 但一・八 エ何二・二二 一、一三・三三 米二・メ士一九・二二
一、一三・三三 米二・メ士一九・二二 一、一三・三三 米二・メ士一九・二二

三 ならん 三 かれらはエホバの地にとどまらずエフライムはエジプトに歸りアツスリヤにて汚穢たる物を食はん

四 彼等はエホバにむかひて酒を灌ぐべき者にあらずその祭物はエホバの悦びたまふ所にあらずかれらの犠牲は喪

に居もののパンのごとし凡てこれを食ふものは汚るべし彼等のパンは只おのが食ふためにのみ用ゐべくしてエホ

バの家に入るべきにあらず 五 なんぢら集會の日とエホバの節會の日は何をなさんとするや 六 視よかれら滅亡

の故によりて去ゆきぬエジプトかれらをあつめメンピスカれらを葬らん 蔘藜かれらが銀の寶物を獲いばら彼らの

天幕に蔓らん 七 刑罰の日きたり應報の日きたれりイスラエルこれを知ん預言者は愚なるもの靈に感じたるもの

は狂へるものなりこれ汝の悪おほく汝の怨恨おほいなるに因る 八 エフライムは我が神にならべて他の神をも

佇望めり預言者の一切の途は鳥を捕ふる者の網のごとく且その神の室の中にて怨恨を懷けり 九 かれらはギベア

の日のごとく甚だしく悪き事を行へりエホバはその悪をこゝろに記てその罪を罰したまはん 一〇 在昔われイスラエルを見ること荒野の葡萄のごとく汝らの先祖等を見ること無花果樹の始にむすべる最先

の果の如くなしに彼等はバアルペオルにゆきて身を恥辱にゆだねその愛する物とともに憎むべき者とはなれり 二

エフライムの榮光は鳥のごとく飛さらん即ち産ことも孕むことも妊娠こともなかるべし 三 假令かれら子等

を育つるとも我その子を喪ひて遺る人なきにいたらしめん我が離るゝ時かれらの禍大なる哉 四 われエフライ

ムを美地に植てツロのごとくなしよかどもエフライムはその子等を携へいだして人を殺す者に付さんとす 五

ホバよ彼らに與へたまへ汝なにを與へんとしたまふや孕まざる胎と乳なき乳房とを與へたまへ 六 かれらが凡の

悪はギルガルにあり此故に我かしこにて之を悪めりその行為あしければ我が家より逐いだし重て愛することをせ
 じその牧伯等はみな悖れる者なり エフライムは撃れその根はかれて果を結ぶまじ若し産ことあらば我その胎
 なる愛しむ實を殺さん 一七 かれら聽從はざるによりて我が神これを棄たまふべしかれらは列國民のうちに
 流離人とならん

第一〇章

一 イスラエルは果をむすびて茂り榮る葡萄の樹その果の多くなるがまゝに祭壇をましその地の饒か
 なるがまゝに偶像を美しくせり 二 かれらは二心をいだけり今かれら罪せらるべし神はその祭壇を
 打毀ちその偶像を折棄てたまはん 三 かれら今いふべし我儕神を畏れざりしに因て我らに王なしこの王はわれら
 のために何をかなさんと

四 かれらは虚しき言をいだし偽の誓をなして約をたつ審判は畑の畝にもえいづる茵蔯のごとし 五 サマリヤ

六 的居民はベテアベンの犢の故によりて戦慄かんその民とこれを悦ぶ祭司等はその榮のうせたるが爲になげかん
 犢はアツスリヤに携へられ禮物としてヤレブ王に献げらるべしエフライムは羞をかうむりイスラエルはおのが
 計議を恥ぢん 七 サマリヤはほろびその王は水のうへの木片のごとし 八 イスラエルの罪なるアベンの崇邱は
 荒はてゝ荆棘と蒺藜その壇のうへにはえ茂らんその時かれら山にむかひて我儕をおほへ陵にむかひて我儕のうへ

九 に倒れよといはん 九 イスラエルよ汝はギベアの日より罪ををかせり彼等はそこに立ち邪惡のひとつとを攻たりし戦争はギベア

- イ何四・一五、一二、一三、ハ中二八・六四、六五、六六・二四、一〇・七、ワ何四・一五、一五、一三、三〇、ナ何四・一五、ナ何九・九、キ士三〇、ウ何九・九、二三・四六、四七、何
- 口何一・六、ト第ニ・二、ル何三・四、一〇・七、カ王上一二・二八、レ何五・一三、ラ何九・六、ク何五〇・一一、米四
- ハ何一・二二、一、二、二、フ中二九・一八、廢五、二九、何八・五、六、ソ何一一・六、ム第ニ・一九、路三三、二一、二二、三
- 三何九・二二、リ何八・四、七、六、二二、徒、ヨ王下二三・五、番一、ツ何一〇・三、一五、三〇、歌六・一六、ノ中二八・六三、ヤ第二・一八、
- 水結二四・二二、又王上一八・二二、太、八・二三、來一二、四、ホ申九・二二、王上、九、六、オ耶一六・一六、結、マ耶四・三

ケ伯四・八 傲二三・八 フ何一三・二六
 何八・七 加六・七、コ王下一八・三四、
 八 一九・二三 一九・二三
 エ何一三・二六
 ラ何一〇・七
 ア何二・二五
 サ出四・二二、二三
 キ太二・一五
 ユ王下一七・一六何
 二・二三、一三・二二
 申一・三一、三三・二二
 一〇一・二二 賽四六 シ利二六・二三
 出二五・二六
 エ詩七八・二五 何二 モ王下一七・一三、
 八
 何八・一三、九・三 七何一〇・六

一〇 にてかれらに及ばざりき 一〇 われども 我思ふまゝに彼等をいましめん彼等その二の罪につながれん時もろもろの民あつま

二 りて之をせめん 二 エフライムは馴されたる牝牛のごとくにして穀をふむことを好むされどわれその美しき頸に

物を負しむべし我エフライムに鞭をかけんユダは耕しヤコブは土塊をくだかん

三 なんぢら義を生ずるために種をまき憐憫にしたがひてかりとり又新地をひらけ今はエホバを求むべき時な

三 り終にはエホバきたりて義を雨のごとく汝等のうへに降せたまはん なんぢらは悪をたがへし不義を穫をさめ

四 虚偽の果をくらへりこは汝おのれの途をたのみ己が勇士の數衆きをたのめるに縁る 四 この故になんぢらの民の

なかに擾亂おこりて汝らの城はことごとく打破られんシヤルマンが戰鬥の日にベテアルベルを打破りしにことな

一五 らず母その子とともに碎かれたり 一五 なんぢらの大なる悪のゆゑによりてベテル如此なんぢらに行へるなりイス

ラエルの王はあしたに滅びん

第一章

一 イスラエルの幼かりしとき我これを愛しぬ我わが子をエジプトより呼いだしたり 二 かれらは呼

るゝに隨ひていよいよその呼者に遠ざかり且もろもろのバアルに犠牲をさゝげ雕たる偶像に香を焚

三 われエフライムに歩むことををしへ彼等をわが腕にのせて抱けり然どかれらは我にいやされたるを知らず

四 われ人にもちゐる素すなはち愛のつなをもて彼等をひけり我がかれらを待ふは鞭をその腮より擧のくるもの

五 ごとくにして彼等に食物をあたへたり

五 かれらはエジプトの地にかへらじ然どかれらがエホバに歸らざるによりてアツスリヤ人その王とならん

七六 劍かれらの諸邑にまはりゆきてその關門をこぼち彼らをその謀計の故によりて滅さん 七 わが民はともすれば

我にはなれんとする心あり人これを招きて上に在るものに屬しめんとすれども身をおこすもの一人だになし

八 エフライムよ我いかで汝をすてんやイスラエルよ我いかで汝をわたさんや我いかで汝をアデマのごとくせ

九 んや争でなんぢをゼボイムのごとく爲んやわが心わが裏にかはりて我の愛憐ことごとく燃おこれり 我わが烈

しき震怒をほどこすことをせじ我かさねてエフライムを滅すことをせじ我は人にあらず神なればなり我は汝のう

〇 ちにいます聖者なりいかりをもて臨まじ かれらは獅子の吼のごとくに聲を出したまふエホバに隨ひて歩まん

二 エホバ聲を出したまへば子等は西より急ぎ來らん かれらエジプトより鳥のごとくアツスリヤより鳩のごとく

に急ぎ來らん我かれらをその家々に住はしむべし是エホバの聖言なり

三 エフライムは謙言をもてイスラエルの家は詐偽をもて我を圍めりユダは神と信ある聖者とに屬きみつかず

み漂蕩をれり

一 エフライムは風をくらひ東風をおひ日々に詐偽と暴逆とを増くはヘアツスリヤと契約を結び油を

二 エジプトに餽れり エホバはユダと争辨をなしたまふヤコブをその途にしたがひて罰しその行爲

三 にしたがひて報いたまふ ヤコブは胎にゐし時その兄弟の踵をとらへまた己が力をもて神と角力あらそへり

四 かれは天の使と角力あらそひて勝ちなきて之に恩をもとめたり彼はベテルにて神にあへり其處にて神われらに

五 語ひたまへり これは萬軍の神エホバなりエホバは其記念の名なり 然ばなんぢの神にかへり矜恤と公義と

をまもり恒になんぢの神を仰ぐべし

第一二章

六五

四

三

二

一

三

二

〇

九

八

イ耶三・六、八・五何
四・二六
口何七・一六
ハ耶九・七、何六・四
二創一四・八、一九・

二四・二五 中二九
二二三 摩四・一一
六中三三・三六 賽
六三・一五 耶三一
二〇

へ民二三・一九 賽
五五・八、九 馬三
ト賽三一・四 耳三
一六 摩一・二

チ亞八・七
リ賽六〇・八 何七
又結二八・二五、二六、
三七・二一、二五

ル何一二・一
ヲ何八・七
ワ王下一七・四 何五
二二三、七・一一
カ賽三〇・六、五七・九

ヨ何四・一 米六・二
夕創二五・二六
レ創三二・二四
ソ創二八・二二、一九、
三五・九、一〇、一五

ツ出三・一五
ネ何一四・一 米六・八
ナ詩三七・七

ラ結一六・三
ム結一一・一 歴八・五
ウ歴一一・五 黙三・
一七
半何一三・四

ノ利二三・四二、四三
ニ何四・一五、九・一五
エ王下一七・二一、一
二八・三七
サ王下一七・一六、
一八 何一一・二
シ賽四三・一一 何
一、二、九
エ賽四三・一一、四五

ニ何四・一五、九・一五
コ出二二・五〇、五一、
一三・三 詩七七・
二〇 賽六三・一一
ア但二一・一八 申
エ王上一九・一八

マ何八・一一、一〇・一
ケ創二八・五 申二六
二〇 賽六三・一一
ア但二一・一八 申
エ王上一九・一八

エ王下一七・二一、一
二八・三七
サ王下一七・一六、
一八 何一一・二
シ賽四三・一一 何
一、二、九
エ賽四三・一一、四五

メ何六・四
ミ但二・三五
シ賽四三・一一 何
一、二、九
エ賽四三・一一、四五

二二

八七 七かれ 彼はカナン人(商賈)なりその手に詭詐の權衡をもち好であざむき取ことをなす エフライムはいふ誠に

九 われは富る者となれり我は身に財寶をえたり凡てわが勞したることの中に罪をうべき不義を見いだす者なかるべ

一〇 我エホバはエジプトの國をいでしより以來なんぢらの神なり我いまも尙なんぢを幕屋にすまはせて節會の

二 日にごとくならしめん 我もろもろの預言者にかたり又これに益々おほく異象をしめしたり我もろもろの預言

三 者に托して譬喩をまうく ギレアデは不義なる者ならずや彼らは全く虚しかれらはギルガルにて牛を犠牲に献

四 ぐかれらの祭壇は圃の畝につみたる石の如し ヤコブはアラムの野にげゆけりイスラエルは妻を得んために

五 人に事へ妻を得んために羊を牧へり エホバ一人の預言者をもてイスラエルをエジプトより導きいだし一人の

六 預言者をもて之を護りたまへり エフライムは怒を激ふること極てはなはだしその主かれが流し血をかれが

七 上にとどめその恥辱をかれに歸らせたまはん

第一三章

一 エフライム言を出せば人をのしり彼はイスラエルのなかに己をたかうしバアルにより罪を犯し

二 て死たりしが 今も尙ますます罪を犯しその銀をもて己のために像を鑄その機巧にしたがひて偶

三 像を作る是みな工人の作なるなり彼らは之につきていふ犠牲を獻ぐる者はこの犢に吻を接べしと 是によりて

四 彼らは朝の雲のごとく速にきえうする露のごとく打場より大風に吹散さるゝ穀穀のごとく窓より出ゆく煙のごと

五 くならん

六 されど我はエジプトの國をいでてより以來なんぢの神エホバなり爾われの外に神を知ことなし我のほか

救者なし 五我さまに荒野にて水なき地にて爾を顧みたり 六かれらは秣場によりて食に飽き飽くによりてその心たかぶり是によりて我を忘れたり 七斯るがゆゑに我かれらに對ひて獅子の如くなり途の傍にひそみろかどふ豹のごとくならん 八われ子をうしなへる熊のごとく彼らに向ひてその心膜を裂き獅子の如くこれを食はん野の獸これに攫断るべし 九

イスラエルよ汝の滅ぶるは我に背き汝を助くる者に背くが故なり 一〇汝のもろもろの邑に汝を助くべき汝の王は今いづくにかあるなんぢらがその王と牧伯等とを我に與へよと言たりし士師等は今いづくにかある 一一れ忿怒をもて汝に王を與へ憤恨をもて之をうばひたり 一二エフライムの不義は包まれてありその罪はをさめたくはへられたり 一三劬勞にかゝれる婦のかなしみ之に臨まん彼は愚なる子なり時に臨みてもなほ産門に入らず 一四我かれらを陰府の手より贖はん我かれらを死より贖はん死よなんぢの疫は何處にあるか陰府よなんぢの災は何處にあるか悔改はかくれて我が目にみえず 一五彼は兄弟のなかにて果を結ぶこと多けれども東風吹きたりエホバの息荒野より吹おこらん之がためにその泉は乾その源は涸れんその積蓄へたるもろもろの寶貴器皿は掠め奪はるべし 一六サムリヤはその神にそむきたれば刑せられ劍に斃れんその嬰兒はなげくだかれその孕たる婦は剖れん 一七イスラエルよ汝の神エホバに歸れよ汝は不義のために仆れたり 一八汝ら言詞をたづさへ來りエホバに歸りていへ諸の不義は赦して善ところを受納れたまへ斯て我らは唇をもて牛のごとくに汝に

第一四章

イ申二・七、三三・一〇、ホ哀三・一〇、何五・一、一馬一九、ワ母前八・七、一〇、ヨ聖一三・八、耶三〇、ツ母前一五・五四、ラ耶四・一一、結一七、ノ王下八・二二、一五
 口申八・一五、三三・一〇、一四、リ何一三・四、一九、二五・二二、二、六、五五、一〇、一九・二二、一〇、一六、賽一三・一六、何一〇・一四、一五
 一〇、ヘ耶五・六、又王下一七・四、二二、一六、一、何、タ緯二二・三、レ王下一九・三、二九、ム僮二・九、何一〇・一三、魯三・一
 ハ申八・二二、一四、ト機歩一七・八、職、ル申三二・三八、何、一〇・三、カ申三三・三四、伯、ソ賽三五・八、結三七、ナ創四一・五二、四八、ウ王下一七・六、一〇
 三三・一五、一七・二二、一七・二二、何一四、ヲ母前八・五、一九、一四・一七、二、二九、ヤ王下一八・二二、オ何一二・六、耳三、
 二何八・一四、チ機六・三三、何一四

一三
ク何一三・九
ヤ來一三・一五
マ耶三一・一八 何五
・二三、一二・一
ケ中一七・一六 詩
三三・一七 賽三〇
・二一六、三一・一
フ何二・二七、一四・八
コ詩一〇・一四、六八
エ耶五・六、一四・七
何一一・七
テ弗一・六
ア伯二九・一九
サ詩五二・八、一二八
三
キ創二七・二七 歌四
・一一
ユ詩九一・一
メ何一四・三
ミ耶三一・二八
シ雅一・一七
エ詩一〇七・四三 耶
九・一二 但一二・
一〇 約八・四七、
一八・三七
ヒ箴一〇・二九 路二
・三四 哥後二・一六
彼前二・七、八

三 獻げん アツスリヤはわれらを援けし我らは馬に騎らじまたふたゝび我儕みづからの手にて作れる者にむかひ

わが神なりと言じ孤兒は爾によりて憐憫を得べければなりと

四 我かれらの反逆を醫し悦びて之を愛せん我が怒はかれを離れ去たり 我イスラエルに對しては露のごと

六 くならん彼は百合花のごとく花さきレバノンのごとく根をはらん その枝は茂りひろがり其美麗は橄欖の樹の

七 ごとくその芬芳はレバノンのごとくならん その蔭に住む者かへり來らんかれらは穀物の如く活かへり葡萄樹

八 のごとく花さきその馨香はレバノンの酒のごとくなるべし エフライムはいふ我また偶像と何のあづかる所あ

らんやと我これに應へたり我かれを顧みん我は蒼翠の松のごとし汝われより果を得ん

九 誰か智慧ある者ぞその人はこの事を曉らん 誰か穎悟ある者ぞその人は之を知ん エホバの道は凡て直し

義者は之を歩む然ど罪人は之に躓かん

ホセア書をばり